
コンビニ

ライカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コンビニ

【Nコード】

N9127E

【作者名】

ライカ

【あらすじ】

ある日、私は暑いからコンビニに冷たい物を買に行ったらコンビニが大変な事に！！

私、^{みや}宮 ^{たから}高良高校1年生。

男の子みたいな名前だけどれつきとした女の子です。

お父さんとお母さんがどっちが産まれても良いようにって考えてつけてくれた名前だけどさあ。

男の子なら別に良いけどさあ、女の子じゃちょっとねえ…。

せめて（はるか）とか（ひかる）とか（かおる）にしてくれればいいのに………って悠長に自己紹介してるけど、私の只今の状況をご説明致します。

今日はメチャクチャ暑いから近くのコンビニに冷たいものを買いに行っただです。

そしたら運悪く、コンビニ強盗中だったらしく、それに気づかずお店に入った私は只今、人質中です……！！

いやあ、人生色々在るとは言われるけど、こんな刺激的な経験は滅多に無いだろうなあ。

強盗

「おい！お前！！」

私

「はーい？」

いやあ、目の前には刃物が突き付けられてるけど、何て言うの？

現実味が無いと言うか…

恐怖心が麻痺してると言うか…

まあ、ぶっちゃけ怖くないかな？

だって強盗さん、手はふるえてるし刃物はちゃんと（親指と人差し指の間に挟んでる感じ？）つかんでないしだし。

そういうの見てるところがちが落ち着いてくるって言うの？

強盗

「お前！！何でそんなに落ち着いてるんだ！！」

私

「いやあ、落ち着いてなんていないですよ。あははは」
頭ポリポリ掻いてみたりして。

お店の人も他のお客さんも青くなってはらはらして私たちの事見てるし。

お店の人はどうにかして警察に連絡しようと頭をフル回転させてるみたい。

私

「ねえ、強盗さん。」

あ、名前解らないから強盗さんで良いよね？」

この強盗蹴り入れたら一発で伸びちゃうんじゃないのかな？

強盗

「な、なんだ！？」

私

「強盗さんなんでこんな事してるの？」

まずは私の疑問を直球で聞いてみた。

強盗

「か、金だよ、金！！」

うん、お金って事はこの状況を見れば大体の人は解ると思うんだよね。

私が聞きたいのはその後の事なんだけどな…。

この人余程テンパってるなあ…。

もうちょっと助け船？

私

「どうして、お金が必要なの？」

まあ、大体は借金とか怖い人から借りちゃったとかだと思うんだけどね。

強盗

「う、うるさい!!」

そんな事はどうでもいいだろ!？」

せっかく私が聞いてあげてるのに、五月蠅いとは何だこらあ!!

あーあ、せっかく穏やかに事を済ませてあげようとしたのに、私キレそうだわ。強盗

「どうして、俺がお前に何でもかんでも話さなくちゃいけないんだ!!」

あ…キレそう…。

強盗

「お前は俺の何だ!?俺の身内か!？」

は!!お前はただの人質だ」

ブチン

あ、キレちゃった。

私

「……………しい」

強盗

「何か言ってみたらどうだ!!」

私

「じゃかあしい!!」

五月蠅いわボケ!!男がうじうじと!!」

やだあ、私はオシトやかな女の子なのよ、こんなはしたない言葉なんて使っちゃいけないわ。

私

「何がただの人質だ!!」

お前みたいな奴は一人じゃ何にも出来ないくせに。

ふざけんな!この、ボケ、カス、ハゲ!!」

やだあ、この人覆面してるから頭が薄いか解らないのにハゲだなんて…

強盗

「おま…」

私

「じゃかあしい、おとなしく人質してやってるのに何だ、その態度は！！」

強盗

「なん…」

私

「人質あつての強盗だろうが！！何様だお前は！！」

イヤン、私がだんだん壊れていく…

私は、強盗をギロリと睨む強盗

「ひい…」

強盗の顔が青くなったような気がする覆面してるから解らないけど。

私

「おい、お前」

強盗

「は、はい…」

え、私そんなに怖い？

強盗さんめちやくちや震えてるよ…。

私

「そこ座れ！」

顎で場所を示す。

強盗

「は、はい」

ぶるぶる震えながら正座する強盗。

私

「おいこら、そのナイフは床に置け！！」

カチャンと音がするくらい慌ててナイフを置く

強盗

「お、置きました」

強盗さん、ちゃんと人の話し聞いてくれてるわ。

本当はいい人なのかしら？

私

「動くなよ！」

少しでも動いたらどうなるか解ってるよな!!」
あれ？

何か立場が変わってない？まあ、いつか。

強盗

「は、はい」

何回もうなずく強盗。

私は少し考えて、おもむろに商品棚に向かった

私

「えっと、これとこれ！」

私は商品を持ってレジに向かう

私

「すみません、これください！」

私がレジに置いた物はガムテープとビニール紐。

店員

「は？…はい、840円になります」

私

「おい」

私は強盗をみる

私、この人に話しかける時だけ、声が変わってるよ

強盗

「は、はい」

私

「金」

強盗

「金？」

私

「これの代金だよ!!」

私に払わせるつもりか!!

千円くらい持ってるだろ!？」

強盗

「す、すみません!今すぐに!!」

強盗はポケットからお財布を出して私に手渡す。

私はクルリと向きを変えてニツコリと笑う。

私

「すみません、お待たせしちゃって。いくらでしたっけ？」

店員

「は、840円です!」

私は強盗から渡されたお財布の中からお金を取り出す。

私

「以外と入ってるなあ。

じゃあこれで!」

私は5000円を出した。

店員

「はい、では41…」

私

「お釣りは良いですよ。

迷惑料って事で。

良いよな!？」

前半はお店の店員さんに。後半は強盗に。

あら、強盗さん何だか涙目になってるわ。

私が今購入した物を何に使うかっていうと。

私

「おい、手を後ろに回せ!!ノロノロすんな!!」

強盗

「は、はい」

強盗はおとなしく私の言う通りに従っている。

私はさっき買った紐で強盗の腕を縛り、さらにその上からガムテ―

プをグルグルと何重にも巻いた。
私

「よし！これでOK！

じゃ、店員さん警察呼んでください。…え？もう呼んだんですか？」
店員さんも他のお客さんもテレビドラマを見ているようにみんなの
目から恐怖が消えていた。

少しして、警察が駆けつけてきた。

警察の人が目を白黒させてたけどお店の中に居たみんなの証言で強
盗犯は警察に連行されていた。

ふう…何か疲れたから家に帰ろう！

あー、どうかみんな私の失態を忘れてください！

私は怖くない普通の女の子なのよーお！

（後書き）

読んでくださってありがとうございます。（――）楽しく書かせて
頂きました。が最後はグダグダになってしまいました。（T―T）
最後に感想でも一言頂けたらとても嬉しいです（^ー^）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9127e/>

コンビニ

2011年1月20日03時27分発行